

構成・演出 三谷幸喜 × 出演 戸田恵子

虹のかけら

～もうひとりのジュディ

取材会レポート

2026
7/24(金) ▶ 26(日)
兵庫県立芸術文化センター
阪急 中ホール

戸田恵子

Keiko Toda Interview インタビュー

ジュディ・ガーランドも驚く!? 4度目の上演へ

女優・声優と幅広いジャンルで活躍する戸田恵子が、日本を代表する演出家・三谷幸喜とタッグを組んで挑む一人舞台「虹のかけら～もうひとりのジュディ」。ニューヨーク・カーネギー・ホールでも上演され喝采を浴びた作品が、7月、兵庫芸文センターに初登場します。



撮影:飯島隆

「オーバー・ザ・レインボー」を歌う時は、やっぱり気持ちがすごく高揚します。

今回で4度目の上演になります。

私の還暦記念に、三谷幸喜さんから「ジュディ・ガーランドをモチーフにした作品はありますか?」とお声がけいただいて。あのジュディを?と初めはすごく驚いたんですが、「是非ともやらせていただきます」と。初演は2018年ですが、三谷さんの台本は初日の6日前に出来上がり、もう死にそうでどんな状態だったか記憶にないぐらいです(笑)。翌年に、作品を全て私の中に落とし込んだ状態で再演をやらせてもらいました。その公演を偶然、観劇していたニューヨークのカーネギー・ホールの方が、是非うちでもと言ってくださったんです。

2024年にニューヨークのカーネギー・ワイル・リサイタルホールでの公演を挟み、日本でも再演されました。

ジュディは47歳で亡くなる波乱万丈の人生の中、仕事でも浮き沈みが激しいんですが、1961年にカーネギー・ホールでシンガーとしてカムバックする。カーネギー・ホールは大中小と会場があるんですが、楽屋は皆同じで、「ああ、ジュディもここを通ったのかな」と思いながら歩きました。ホールには大スターの8枚の写真が飾られていて、

これはずっと、減りもしないし、増えもしないそうで、ジュディと娘のライザ・ミネリがいるんです。彼女の神がかり的な何かを感じて帰国し、そんな感覚に頼りつつ日本での凱旋公演を終えました。また、ロサンゼルスジュディのお墓に2回もお参りし、「またやらせていただきます」と。彼女も「この人、また来たか」とビックリしていると思うんですよ(笑)。縁がどんどん深まる思いです。



2024年東京公演より 撮影:宮川舞子

再演を重ねて、共感できる部分が増えましたか。

本当に恐れ多いぐらいの大スターだから共感する部分はないんですよ。ただ、あの時代のスターはドラッグやアルコールを常用して、周りも薬に頼らせて彼女を働かせていた。そんな状況でプライベートもうまくいかないのに、表ではスターを装っている。仕事に向かう彼女の孤独は少し分かるし、皆さんにも分かっていたきたい。「オズの魔法使」をはじめ、素晴らしい作品を残してくれたのはすごいことなんですけど、彼女が**人生の紆余曲折を乗り越えてきた**ことをより深く届けたいなと。私も年を取ってきて、人生色々あるよねということは分かりますので。

ジュディの付き人として、代役として、彼女に寄り添ったジュディ・シルバーマンを通して物語が描かれます。

彼女がいるからジュディが浮かび上がる。シルバーマンはジュディに優しくったり、ジェラシーもあったり、最後の最後までどう思っていたのかは、三谷さんの思いもあり面白いところです。より色濃く演じられたらと思います。

好きなシーンは?

いっぱいあるんですが、「オーバー・ザ・レインボー」を歌う時は、やっぱり気持ちがすごく高揚しますね。お客さんも来たっ!と思うところだと感じます。

最後にメッセージをお願いします。

毎回見ている方もいらっしゃるんで、「より円熟味を増したね」や、「さらに若々しくなったね」とも言われたいです。来年、古希を迎えるんですが、**一人芝居を4回もできるなんて喜び**でありがたいことですし、これで本当に最後かもしれないので(笑)、一層力を込めて頑張ります。語り手になったり、歌ったり、歴史を説明したりと一人で色々するので体力勝負ですが、お子さんを含め、幅広い人にエンターテインメントショーとして楽しんでもらいたいです。

(取材・文=米満ゆう子)

〈裏面へ続く〉

構成・演出 三谷幸喜 × 出演 戸田恵子

虹のかけら

～もうひとりのジュディ

歌あり・芝居あり・朗読あり！
「虹の彼方に(オーバー・ザ・レインボー)」など、
ジュディ・ガーランドが歌った
名曲とともに贈る物語

Introduction

映画「オズの魔法使」ドロシー役で一世を風靡した世紀のミュージカルスター、ジュディ・ガーランドと、ほとんど知る人のない彼女の専属代役兼付き人であったジュディ・シルバーマン。本作では、ジュディ・シルバーマンの目を通して、同じ「ジュディ」への愛憎と、ジュディ・ガーランドの数奇な人生を描く。バンドの生演奏とともに、戸田恵子による歌唱、芝居、語りと多彩な表現でお届けする。



2024年ニューヨーク公演より 撮影・佐々木悠人

音楽の殿堂 ニューヨーク・カーネギー・ホールで上演されました！

「虹のかけら～もうひとりのジュディ」は2018年に初演。2019年の再演をカーネギー・ホール関係者が観劇していたことがきっかけで、コロナ禍を経て、2024年6月に音楽の殿堂、ニューヨーク・カーネギー・ワイル・リサイタルホールでの公演がついに実現。ニューヨークの観客からも拍手喝采を浴び、大盛況のうちに幕を閉じました。

カーネギーでの素晴らしいショー、おめでとう。
主役の女性はとてもチャーミングでした。

—— ボブ・ウォルトン&ジム・ウォルトン兄弟
(『ダブル・トラブル』脚本・作詞・作曲)

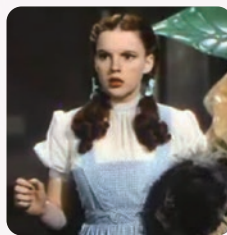


英題 "Judy - Piece of the Rainbow" として上演
写真:「虹のかけら」公式Xより

Topics | ジュディ・ガーランド Judy Garland

1922年、アメリカ・ミネソタ州生まれ。芸能一家で育ち、2歳で初めて舞台に立つ。その卓越した歌唱力で、13歳でアメリカの大手映画会社MGMと契約。17歳で「オズの魔法使」(1939年)のドロシー役に抜擢され、国民的スターに。主題歌の「虹の彼方に(オーバー・ザ・レインボー)」は、往年のハリウッドミュージカル映画が生んだ名曲として歌い継がれている。その功績により、1940年にアカデミー賞特別賞を受賞。その後、大ヒット作「若草の頃」(1944年)で監督を務めたヴィンセント・ミネリと2度目の結婚。2人の間に生まれた娘のライザ・ミネリも後に大スターになる。「イースター・パレード」(1948年)では、天才ダンサーのフレッド・アステアと共演し、アステアも舌を巻くダンスを披露。一流エンターテイナーの名をほしいままにした。3度目の夫シドニー・ラフトが製作した「スタア誕生」(1954年)ではアカデミー賞主演女優賞にノミネートされる。しかし、その輝かしい功績の裏で、ティーンエイジャーの頃から周りの大人や映画会社にコントロールされ、ドラッグや睡眠薬を常用。遅刻や欠勤を繰り返した結果、映画界から見放され、コンサート活動に軸を移す。1961年、ニューヨークのカーネギー・ホールでのライブを収録したアルバム「ジュディ・アット・カーネギー・ホール」が大ヒットし、翌年のグラミー賞で、最優秀女性歌唱賞、最優秀アルバム賞などを獲得。1969年、薬物の過剰摂取により47歳でこの世を去る。

(文=米満ゆう子)



公演情報

2026 7/24(金) 18:00・25(土) 13:00・26(日) 13:00

A席 8,000円 B席 5,000円
【全席指定・税込】

好評
発売中

兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール

ご予約
お問合せ

芸術文化センターチケットオフィス
10:00-17:00 月曜休み ※祝日の場合翌日

0798-68-0255

※車いす席はお電話でのみ販売しております。※未就学児童のご入場はご遠慮ください。※やむを得ない事情により、出演者等が変更となる場合があります。

主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター